障がい児学級の設置について

佐藤　清治

(問)　関小は知的障がい児学級が設置されているが、人数の増加によって知的障がい児学級と自閉、情緒障がい児学級に分けていただきたいという声が寄せられている。

(答)教育長　2月25日現在、9名の見込みとなりました。

したがいまして平成21年度は2学級となる準備を進めているところでございます。

ただし、知的障害と自閉症、情緒障害を分けた2学級ではなく、知的障がい特別支援学級としての2学級でのスタートとなります。

(問)　中学校に自閉症、情緒障がい児学級の設置が急がれているのではないか。

(答)教育長　重要な課題と考えております。今後につきましては学校と連絡を取りながら、保護者と学校の教育相談を見守り、県教育委員会と協議を進めてまいります。

中央中　屋内プール

◆駅南元最終処分場の活用は

(問)　今後の元処分場用地の活用の見通しについて伺います。

(答)市長　隣接する近隣公園と一体的な整備ができるよう都市再生機構と協議を進めてまいります。

◆中央中・南中のプール改善を

(問)　子どもたちが安心して授業を受けられるよう対応が求められている。

(答)教育部長　学校と協議して生徒の授業に支障がないよう修繕や部分改修を行ってまいります。

障害者自立支援法3年目の見直しで市障害者施策の前進を

小林　昭子

(問)　現在、他市に頼っている一時預かりの日中支援事業の市内実施は緊急の課題。新設センターでの事業として決定したのか。

(答)健康福祉部長　運営主体となる「葭の里」と今後協議をしていく。この事業は開設当時にできればと考えているが、課題として三障害（知的、精神、身体）一緒のサービス体系の検討、重度障害への対応、医療ケアなど課題がある。

(問)　重度障がいは、自立支援法の見直しの中でも「重度訪問介護サービスの確保」「障がい程度区分見直し」「報酬改定での重度加算」等慎重な見直しが図られている。吉川市でも事業所不足などさらなる充実が求められるが。

(答)市長　平成21年度からの見直しにより、福祉サービスの報酬が引き上がる。これによって重度障害サービスの拡大や質の向上が図られると思う。それらを踏まえ、事業所に対してサービスの向上に努めていくよう働きかけていく。

(問)　「親なき後」の課題も切実。自立支援法の見直しではケアホーム等提起されている。個人で悩んでいる人も多いのではないか。相談窓口も兼ね「市検討委員会」の設置を。

(答)健康福祉部長　検討委員会は目的、内容によって委員会構成も違う。要望もあるので、来年度から居宅として、どのような形で整備できるか個別案件として協議したい。公的空住宅、民間アパートの借り上げなど参考になる。

市の基本姿勢を問う

安田　真也

(問)　市長の考える吉川市の「強み」と「弱み」とは。

(答)市長　市民意識調査では、自然が豊か、買い物等の生活の便が良いとの声が多い。強みは、都心より25キロ圏の立地、市内一帯に田園風景があり、豊かな自然があること。弱みは、近郊都市の特徴である個性に乏しいところと考える。

(問)　「選択と集中」という言葉は、民間では良いが、公共サービスの低下を生み出しかねないと思うが、市長の考える「選択と集中」の中身は。

(答)市長　民間と違い、福祉や教育など経常的に対応しなければならない分野が多い。市民要望を踏まえ施策の優先度を見極め、重点化を図り、市民・企業・行政がお互いの役割分担をしながら街づくりをしていく。

◆悪質商法から市民を守れ

(問)　高齢者等を狙った詐欺が横行している。「振り込め詐欺」のように騙されていることに気がつかないケースも見受けられる。啓発活動以外に悪質業者の情報収集が必要と考えるが。

(答)市民生活部長　いち早く情報を収集し、必要な対策をとることが重要と考える。国民生活センターと自治体の消費生活相談窓口をオンラインで結び、全国の消費生活情報を収集・提供する「全国消費生活ネットワーク端末」を平成21年度中に配備できるよう国民生活センターに要望中。